

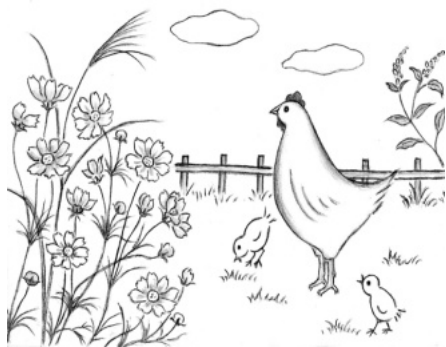
●三位一体後第十七主日

泉のほとり

今月の詩編「第三十五編」

わたしの魂は主によつて喜び躍り

御救いを喜び樂しみます。



主の恵みを味わいながら

混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。最近教会の中でよく引用される言葉です。しかしその意味は、必ずしも明確ではありません。

この箇所で神さまは三つの命令をわたしたちに与えておられます。第一は、悪意、偽り、偽善、妬み、悪口をすべて捨てることです。これらはすべて人間関係を壊して、わたしたちを悩ませるものです。しかし、だからこれらを捨てなさい、というのではありません。その理由は直前の御言葉にあります。「草は枯れ、花は散る。しかし主の言葉は永遠に変わることがない」。わたしたちが生きている世界を「影の国」と呼んだ人がいます。影は実体が映つたものです。だから伸びたり、縮んだり、消えたりします。わたしたちの愛も真実も、影のようです。でも神さまの愛と真実は確かです。永遠に変わることはありません。わたしたちはいつかこの世を去つて、その神さまが支配される国に行くのです。そこでは、悪意も偽りも偽善も妬みも悪口も、存在が許されません。だからそれらを捨てなさい、と主は言われるのです。わたしたちは決断して、それらの一つ一つ、捨てて離れなければなりません。

そのようにして、生まれたばかりの乳飲み子のようになつたなら、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさいと主は言われます。捨てるだけで中が空っぽだと、元に戻つてしまいます。

だから霊の乳で満たしていただくのです。乳には味があります。それは主イエスの恵みの味です。恵みの味がしなければ、それは混ざりものの入つた乳です。主イエスの恵み深さを味わつたわたしたちは、その味を忘れることはありません。

味は感覚的にわかるものです。しかしこの「霊の乳」を新しい共同訳聖書では「理にかなつた」と訳しました。神さまの救いは筋が通つています。それは知性で捉えられるものです。感覚的にわかるだけでは不十分です。例えば「救い」は一つのプロセスです。初めがあつて終わりがあります。主イエスを信じ、洗礼を受けて、救いのプロセスの出発点に立ちます。その後は、信仰者として成長して行つて、最後は、主イエスに似た者になります。ここで「救われるようになる」とは、救いの完成に至るという意味です。霊の乳は、主イエスの恵みを味わせつつ、このような救いの筋道を教えるものです。

そして最後に「この主のもとに來なさい」と神さまは言われます。わたしたちのような罪深いものが、救われて神の子となるために、この世に來てください、十字架についてくださり、復活された主イエスです。その主のもとに來なさいと、神さまは招かれるのです。

わたしたちは、週ごとに霊の乳を受けながら、一日一日と主に近づいていきます。その歩みがわたしたちの信仰生活を作るのです。

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

- 主日予定表は次週配布します。
- 次回の洗礼式と転入会式は十二月二日のクリスマス礼拝です。受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、一〇月六日までに牧師宛ご提出ください。願書は教会事務所にあります。

《ぶどうの会より》

礼拝後、第二・三シオンルームでぶどうの会を行います。

《ミニバザーより》

二二日のミニバザーは、一時五〇分より開始いたします。販売品は「靴・バッグ」、お引き取り品は「ジャケット」です。

今後の日程は、一〇月一三日、二〇日、十一月一〇日です。詳しくは、一F掲示板をご覧ください。

《ルツの会より》

本日の礼拝終了後一五分後を目途に、カナンルームで公開ルツの会を行います。出エジプト記三〜四章、モーセの召命から学びます。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《運営委員会より》

この夏、多くの皆様が参加された夏季バイブルスクールに関し、受けた恵について発表の機会を設けます。皆様からのご応募をお待ちしております。

○日時 一〇月二三日(日) 礼拝後の「交わりの会」の中で行います。

○発表内容等 七月三十日からの「創世記のはじめを語る、その後」、八月五日からの「聖書の翻訳について」、八月一二日の「ヨハネの手紙一・二・三(通読会)」の何れかに参加された方で、参加して受けた恵やその後の信仰生活で変わったこと等、お一人五分程度で自由に発表してください。

《教育奉仕委員会より》

十一月二日(土)湘南基督教墓苑で墓苑礼拝を行います。今年は事前に参加者を募ります。教会から現地までバスをご利用の方が多数の場合、バスを手配する予定です。バスの費用は、お一人につき六〇〇〇円です。参加をご希望の方は(自家用車、公共交通機関をご利用の方も)九月二十九日(日)までにスタッフの宮間兄までお知らせください。宜しく願います。

《ジュネーブ教会信仰問答》

第十五聖日

使徒信条「公同の教会を信ず」に関して

問九二 その次はなんですか。

答 第四の部分です。ここには公同の教会を信ずといわれています。

問九三 公同の教会とは何ですか。

答 それは神が永遠の生命に定め、選ばれた信徒たちの群れであります。

問九四 この個条を信ずる必要がありますか。

答 はい、もしわれわれがイエス・キリストの死を実りないものとし、上述のすべてのことを無益にすることを欲しないならば、当然であります。なぜならば、そこから生まれる実りが教会でありますから。

問九五 では、今までのところでは、救いの原因と基礎

について、すなわち神がイエス・キリストによってわれわれをご慈愛の中に受け容れてくださったことと、その聖霊によって、この恵みがわれわれに確かにされたことが語られたのであるが、今や、それについて一層の確かさを与えるために、これらすべての実現と完成とが明らかにされたというのですね。

答 その通りであります。

問九六 どのような意味で教会を聖なるというのですか。

答 なぜならば、神はその選んだ人々を義とし潔めて、彼らの中に神の栄光を輝かせるために、聖にして罪なきまでに至らせなさいます。かくして、イエス・キリストは、その教会を贖われた上で、これを聖化し教会を栄光にみちた、汚れないものとなさしたのであります。

問九七 この公同、あるいは、普遍という言葉はどんな意味ですか。

答 信徒たちのかしらはただひとりであるのと同様に、すべての者が一つの身体に結び合わされるべきであることを、表わすためであります。従って、幾つもの教会があるのではなくて、ただ一つであり、それが全世界に広がっているのであります。

問九八 では次の聖徒の交わり、というのは何を意味しますか。

答 これは教会員の間にある一致を、よりよくいい表わすために付け加えられております。またこのことからわれわれは、われわれの主が教会に賜う恵みはすべて、各々の信徒の益と救いのためであることを理解すべきであります。なぜならば、彼らはすべて共に交わりを保っているからであります。

《今日の子ども礼拝》

説教 「神の前に立つモーセ」

聖書 出エジプト32章11〜14節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「良い情報と悪い情報」

聖書 民数記13章25〜14章4節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

●主日礼拝(午前10時30分)

讚美歌 60番 353番

説教 「悲しみが喜びに変わる」

聖書 ヨハネ16章16〜24節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 334番 185番
説教 「真理の霊が悟らせること」
聖書 ヨハネ16章1～15節(新約 P.200)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「我ら皆唯一の神を信ず」 J.P.スウェーリンク

○讃美歌334番

1. いつわりの世に わかれを告げ
罪とけがれを うちしりぞけ
ただひたすらに われはしたう
とわに 変らぬ あまつ国を
2. かみの御子なる わが主イエスよ
みむねのままに みちびきませ
苦しみわれに せまり来とも
みちからをもて つよめたまえ
3. こころのうちに 照り映ゆるは
イエスの十字架の みひかりのみ
み名を たたえて われ安けく
死のおおなみを 乗りこえゆかん
4. み腕に すがる しもべの名を
いのちの書に したるたまえ
主は 眞実に ぞましますと
あまつ国にて 我はうたわん
アーメン

○讃美歌185番

1. きよきみたまよ おぐらきこころ
てらしたまえや みひかりをもて
2. きよきみたまよ うちなるつみを
きよめたまえや みちからをもて
3. きよきみたまよ このうき身にも
みたしたまえや あまつよろこび
4. みたまよ たえず こころに住みて
おさめたまえや のこるくまなく
アーメン

聖餐曲「主はわが飼い主」 D.ウット

後奏曲「協奏曲変ロ長調より」 (アレグロモデラート)

G.F.ヘンデル

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。